

# 研究構想図

## 誰一人取り残さない社会

国連サミットで、全会一致で採択。「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、2030年を年限とする17の国際目標（SDGs）。

## 誰一人取り残さない学校

児童を誰一人取り残さないよう、教員が児童一人一人を大切にしながら指導を推進するとともに、児童が自ら努力を重ね、主体的に自身や集団を高めていくことができる学校。

## 研究主題

感じたことを大切に、思いや願いを実現する児童の育成  
～誰一人取り残さない授業を目指して～

## 仮説

誰一人取り残さない視点で授業に取り組むことで、児童に、共に生きることに喜びを感じる心が芽生えるはずである。この心は、やがて大人になったとき、多様性と包摂性のある社会を実現しようとする意欲や行動へと発展し持続可能な社会の担い手を育てることができるだろう。

各分科会（低・中・高・特支）の研究

身に付けさせたい力〈主体的・対話的で深い学びを通して〉

### 立ち向かう力

目の前の課題を捉え、課題解決に意欲的に関わる力

### 共創する力

他者と関わり合いながら、よりよい考えや方法を創造する力

### 行動する力

課題解決の過程で得たことを基に、自分の思いを堂々と表現する力

## そのための方策

導入の工夫…素直な思いや願い、考えを表現させる。⇒やってみよう。知りたい。  
見通しの工夫…個の考えをもたせ、クラスで話し合わせる。⇒〇〇だから△△しよう。  
表現活動の工夫…多様な表現活動を身に付けさせる。⇒文章、絵図、劇、討論など

## 誰一人取り残さない視点

- 1 児童一人一人の思いや考えを大切に、肯定的に受け止める。
- 2 授業の中で児童全員の思いや考えを必ず表現させ、みんなで共有する。
- 3 児童全員が課題に取り組んでいるか、いないか、学習状況を見取る。
- 4 取り組んでいなければ指導し、当然のことでも取り組んでいれば褒める。
- 5 児童の多様な思考を見取った授業構成を常に心がける。

## 持続可能な社会づくりに向けた教育推進校の役割

単元とSDGsとの関連を明確にする。

全学年のSDGsカレンダーを作成する。

外部人材や地域資源等の活用を図る。

## 成果

- ・「誰一人取り残さない」姿勢を求めることで、児童は学習課題に立ち向かうようになった。
- ・必然性のある課題を設定することで、児童の主体的で継続的な態度が見られるようになった。
- ・単元とSDGsとの関連を児童が意識できるようになった。

## 課題

- ・本校に合った主体的・対話的で深い学びの在り方をより具体的に探る必要がある。
- ・各教科等の学習から、SDGsを身近な問題点としてとらえ、継続して課題解決を図っていくことが必要である。